## 右主気管支による広範囲気管切除後の気管再建に関する基礎的研究

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2022-07-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Murakami, Shinya
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066602

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 右主気管支による広範囲気管切除後の気管再建に関する基礎的研究

Research Project

	All 🗸
Project/Area Number	
05770967	
Research Category	
Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)	
Allocation Type	
Single-year Grants	
Research Field	
Thoracic surgery	
Research Institution	
Kanazawa University	
Principal Investigator	
村上 真也 金沢大学, 医学部・附属病院, 助手 (20210007)	
Project Period (FY)	
1993	
Project Status	
Completed (Fiscal Year 1993)	
Budget Amount *help	
<b>¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)</b> Fiscal Year 1993: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)	
Keywords	
気管再建 / 代用気管 / 気道線毛運動	
Research Abstract	

1,対象と方法. 雑種成犬にて右主気管支を使用した気管再建術を施行した。

遊離気管支群(6頭):同様に右上葉と気管分岐部上5軟骨輪より上方の5軟骨輪の気管を切除した。右気管支を気管分岐部直下および中下葉支分岐部直上にて切離し, 遊離気管支を作成,気管切除部位に間置した。中下葉支は気管分岐部に吻合した。

両モデルにおいて有茎大網弁にて吻合部を被覆した。

術後定期的に気管支鏡により吻合部,気管支上皮の観察を行い,またCarbon Particlesを気道に置き,10分ごとにその位置を観察し線毛運動を検討した。組織学的検討を光顕および走査電顕にて行った。

2.結果

反転気管支群においては2頭で吻合部の肉芽が認められたが,全例生存した。気管支鏡的には7日目までは発赤腫脹が認められたが,3週後にはほぼ正常所見を呈していた。光顕,走査電顕では10日目では気管支上皮は脱落していたが,20日後には気管支上皮は再生し,1か月では走査電顕でも線毛が認められたが,線毛運動は消失していた。遊離気管支群においては間置気管支の虚血所見は著しく,正常所見になるには約5週間を要した。1例では上葉支断端が潰瘍状態となっていた。線毛運動は消失していた。

## Report (1 results)

1993 Annual Research Report

## Research Products (1 results)

All Publications (1 results)

[Publications] Shinya Murakami: "Tracheal Recenstruction after Lower Tracheal Resection Using the Inverted Right Bronchus - an Experimental Stuby"
The Thoracic and Cardioyuscular Surgeon. 41. 335-339 (1993)

**URL:** https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05770967/

Published: 1993-03-31 Modified: 2016-04-21